

# 報告書抄録

ふりがな	にしくぼ・みややまいせきだいじゅうなな・にじゅうちてんはつくつちようさほうこくしょ							
書名	西久保・宮山遺跡第17・20地点発掘調査報告書							
副書名								
シリーズ名	朝霞市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第58集							
編著者名	安田 脩一							
編集機関	朝霞市教育委員会(文化財課)							
所在地	〒351-0007 埼玉県朝霞市岡2-7-22				Tel.048-463-2927			
発行年月日	西暦2023(令和5年)3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしくぼ みややま 西久保・宮山 いせきだい ちてん 遺跡第17地点	あさかしはまさき 朝霞市浜崎 ちようめ 3丁目11-7～-12	11027	008-015	35度 49分 4秒	139度 35分 36秒	2013年 3月11日 ～ 2013年 3月21日	40.79	記録保存 調査
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしくぼ みややま 西久保・宮山 いせきだい ちてん 遺跡第20地点	あさかしはまさき 朝霞市浜崎 ちようめ 3丁目11-13、-14	11027	008-015	35度 49分 34秒	139度 35分 35秒	2017年 9月29日 ～ 2017年 10月27日	65.20	記録保存 調査
所収遺跡名		種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
西久保・宮山遺跡第17地点		集落跡	縄文時代	炉穴1基	縄文土器 石器	第1号住居跡は焼失住居とみられ、出土した土器は器種が多様で、いずれも遺存度が高い。壺形土器は類例の少ない黒彩が施されている。		
			弥生時代	住居跡2軒	弥生土器 石器			
			平安時代		須恵器			
			中世以降		板碑片 陶磁器 ほうろく			
西久保・宮山遺跡第20地点		集落跡	縄文時代		縄文土器	第2号住居跡の地床炉付近から、確認されている中で市内では2例目の有段刺突羽状文帯を持つ壺形土器の肩～頸部が出土した。		
			弥生時代	住居跡2軒	弥生土器			
			中世以降		板碑片			
			時期不明	住居跡1軒 土坑3基 ピット2基				
要約		<p>西久保・宮山遺跡は、東に県道と光・志木線を挟んで隣接する中道・中道下遺跡とともに、黒目川左岸側の河岸段丘緩斜面上に立地する遺跡で、これまでの調査により、古代から中近世にいたる各時代に集落が展開することが明らかになっている。中でも弥生時代後期～古墳時代初頭にかけての住居跡からは、該期としては出土する遺物量が多く、停滞気味な武蔵野台地北東縁辺部の在り土器編年の整備に、有用な資料群として注目に値する。</p> <p>今回の調査でも第17地点で2軒、第20地点で2軒の住居跡が確認された。</p> <p>第17地点の、焼失住居とみられる第1号住居跡からは遺存度の高い多様な器種の土器が出土しており、当時製作・使用されていた器種のセットを知る上で、非常に重要な土器群の検出となった。また、その中に近隣市含め事例のほとんどない文様帯に黒彩がなされた壺形土器が出土している。</p> <p>第20地点の第2号住居跡からは、市内では西久保・宮山遺跡第21地点の事例に続き2例目となる、明確にそれとわかる有段刺突羽状文の施された文様帯を持つ壺形土器が出土した。該期の当地域は東遠江地方菊川式系統の土器との関係性が議論されて久しいが、はっきりと「外来系の文様要素を持つ」とわかる遺存度の土器の出土は市内では珍しい。在地系統もさることながら、東海地方の影響を考える上でも重要な一例を加える調査結果となった。</p>						